

農業、6次産業化、雇用、農福連携、その他(障害者の活躍)

一人ひとりの皆の力、合わせれば何でもできる**活動の経緯**

幸の実園で暮らす入所利用者（障がい者）が四季を巡り栽培のし易さと食品を扱う楽しさを感じながら活動できるよう、平成12年度より東海村特産の干し芋作りなどを通じた自立支援に取り組む。

活動の概要

幸の実園入所利用者による、年間を通じた干し芋作り（春：苗の定植、夏：草取り、秋：収穫及び貯蔵、冬：加工及び販売）のほかミニトマト栽培、餅米の赤飯、おこわ、のし餅加工に取り組む。



トラクター畝作り、奥は利用者と職員で定植



干し芋加工：芋蒸かし、皮むき、スライス、並べ

活動の成果、主な実績等

○農業経営者を招いての勉強会を毎年度実施し、品質向上と効率的な増産のコツを学び実践に取り入れている。

○遊休農地の活用相談や依頼を受け、規模を拡大し、平成12年度の本格始動時の30aから令和4年度の7.5haへ拡大。干し芋の売上は平成30年度の約2,500万円から令和4年度の約5,000万円へ倍増。

○干し芋などに係る四季を通じた作業により、令和4年度の平均工賃月額は幸の実園：38,112円、第二幸の実園：33,684円で、令和3年度茨城県障がい者就労継続B型支援事業平均工賃月額14,350円、全国平均工賃月額16,507円を上回っている。

○このほか春の定植時の地域中学校の社会実習、秋の収穫時の地域小学校との収穫体験及び地元家族参加による収穫イベントなど地域との交流を行っている。